

令和3年度第3回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和4年3月19日（土）10時00分～11時50分

開催場所：福知山市立図書館中央館 研修室

出席委員：神谷委員長、仲野副委員長、由良委員、足立委員、正木委員、安川委員、善積委員、
木村委員、芦田委員、西村委員

欠席委員：山路委員

事務局：山路館長、大槻次長、四方次長、塩谷係長

傍聴者：なし

- 議題：（1）令和3年度図書館事業報告について
（2）「ふくちやま電子図書館」等について
（3）図書館協議会委員の公募について

<委員長あいさつ>

<前回議事録の承認>

協議事項

1 令和3年度図書館事業報告について

～資料「図書館事業報告（令和3年4月～令和4年3月初旬）」等に基づき、事務局から説明～
内容：令和3年度の図書館の事業について

事務局：資料については、第2回の図書館協議会において令和3年11月までの報告をさせていただいたものに、追記をさせていただいた資料になります。

新型コロナウイルス感染症の図書館の対応状況については、10月1日から感染対策を徹底し、館内サービスを再開しておりましたが、皆様もご存じのとおり、再度の流行を受け1月13日（金）から1月31日（月）までの期間で、全館でイベントを中止とし、その後、2月6日まで、更には、2月16日まで延長され、再度、3月6日まで延長をされる形で、1月の中旬から3月初旬までイベントを中止することになってしまいました。3月7日の月曜日からイベント等の開催自粛を解除ということで、現在は各事業を実施させていただいている形となっております。

移動図書館については記載事項に変更なく、乳幼児向け事業のえほんのへや等については、基本的に12月、1月は実施をさせていただくことができました。小学生向け事業としては、12月8日、10日に雀部小学校2年生が、12月17日には昭和小学校の

2年生129人が社会見学にこられました。

館内展示については、コロナウイルス感染症の流行とは関係なく、それぞれ各月テーマを決めて実施をさせていただいております。特別展示として、亡くなられた石原慎太郎さん、西村京太郎さんの追悼展示もさせていただきました。

また、関係団体展示として、かなりの数の関係団体とのコラボ企画展示も実施させていただき、臨床検査技師会と府、市共催による新規の展示も実施することができました。

バリアフリーサービスについては、宅配サービスの利用状況が、前回の報告では2件であったものが、2月末時点で5件になり、暮らしに読書をおうえん貸出セットについても一定順調に貸出件数が増えている状況となっております。その他のイベント講演会等については、夜久野分館で新年企画として「本の福袋」という企画で50セット限定で実施、三和分館でも「新春福引企画」ということで100名限定で実施をし、両方とも好評をいただきました。現在、三和分館では「本の処方箋、良く効くよみ薬あります」という企画を実施しております。また、初心者向け館内見学会を中央館でさせていただき、定員5名に対して2名の参加でしたが、自動化書庫の見学や、新規の利用者カードの取得、電子図書館の使い方などを体験していただき、図書館に対して良い印象を持って帰っていただくことができました。

その他としましては、電子図書館サービスの提供の開始が、1月20日からコンテンツ数約18,000タイトルでスタートをし、在住、在学、在勤で01から始まる図書館利用券をお持ちの方を対象とし、オープニングイベントとして遷喬小学校2年2組の児童と市長、教育長のオンラインミーティングをさせていただきました。

次に電子図書館サービス導入に伴うシステムメンテナンスのための臨時休館を1月18日に全館で実施し、毎年実施しています蔵書点検を、中央館で2月14日から18日まで、分館については、2月23日から24日まで実施し、そのための臨時休館を中央館が2月15日から18日まで、分館で24日にさせていただきました。

電子図書館サービスと共に、後ほど詳しく説明させていただきますが、ナクソスミュージックライブラリーというクラシック音楽に特化した音楽配信サービスを2月22日からスタートし、国会国立図書館デジタル化資料送信サービスも2月25日から新たにスタートさせていただいております。

図書館事業報告の新しい報告事項については、以上となります。

続きまして、参考資料として、令和3年度図書館貸出点数及び入館者数集計表(速報値)として、中央館及び各分館の貸出点数と入館者数を令和2年度の年報の数値と令和3年度の各月の統計月報の数値を比較した一覧表にしたものとなっております。また、下の方に、過去5年間の中央館の貸出点数及び入館者数の推移をグラフにしたものを表示しております。緩やかに下降線をたどっていたものが、新型コロナウイルス感染症の影響で、開館日数が少なくなったこともあり、急激に落ち込んでいるのがここ2年の状況となっております。

もう一点、広報ふくちやまの2月号の記事を参考資料としてお配りさせていただいて

おりますが、電子図書館がスタートするということで、図書館の魅力を発信しようと特集を組んでいただきました。この2月号に対するアンケートでも、概ね良かったとの回答をいただいております。

令和3年度の図書館事業報告については、以上です。

委員：今の事業報告に対してなにかご意見、ご質問はありますでしょうか。

委員：事業報告で、三和分館で実施されている紙芝居がビニール袋の中にテーマに沿って3冊ほどセットしてある「お家でミニおはなし会セット」が私、すごくファンでよく借りているのですが、あれもやはり人気があると思います。かわいい折紙もプレゼントで付いていて、集めるのも楽しみで行ったりしているのですが、他にも同じようなかたもおられて、あれも、事業報告としてあげておいていただきといなと思います。

委員：出張シニア読書講座というものが報告にありましたが、私もシニアなので、どのような講座をされたのか気になったのですが、多分こういう講座に参加される方は読書好きな方が多いのではないかと思います。どのような内容で実施をされたのでしょうか。

事務局：先ほどの資料広報ふくちやまの特集で、地域に飛び出す図書館のページに記載があります「シニア向け 本の楽しみ方出前講座」がその内容となります。エッセイなどの朗読や脳トレ、本の紹介など、本を通して脳と心がいきいきする時間をお届けするプログラムとして、公民館や老人クラブ、地域のサロンなどに出張させていただいて、実施をさせていただいております。もちろん読書に興味のある方もなのですが、貯筋体操がよくシニアのサークルとかでされていますが、貯筋体操をして体を動かしてから、このシニア読書講座をというようにリクエストもあります。必ずしも読書に興味がある方ばかりでなく、頭の体操として利用されている形になっております。広報に掲載された影響もあり、申込みも増えている状況となっています。新年度以降も引き続き、随時お申込みいただきましたら出向いて行かせていただきたいと思います。

委員：電子図書館の利用状況が気になっているのですが、小学校に現在も勤務させていただいているので、子ども達が導入されてどんな風楽しんでるかを日常見ているのですが、最初の導入で興味を示していて、そのあと続くかなと思っていたのですが、コロナ禍で学級閉鎖になり、先生たちはその期間に読むよう声掛けされていたのですが、あまり利用状況が、うちの学校に限ってかもしれないですが、芳しくなく、懸念しているのが、やはり読書離れが進んでいるように感じます。タブレットで電子図書館を見るのも良い方法ではありますが、やはり本が好きの子が電子図書館を利用して、本嫌いな子は読まないですし、難しいところだと思います。タブレットで電子図書館を読むことが読書意欲に繋がってほしいと思っています。

このアンケートを読んでいたならば、子どもが学校のタブレットを持ち帰って、それを親が使って電子図書館を読んでおられるというものもありまして、そういう利用方法もあるのだなと思って、親子で読めるというのは、紙媒体もそうですが、利点ではあるなと思います。読書離れが懸念の材料です。先生たちがスキマの時間に、読書するかタブレットするかして待つように言われると、やはりじっくりと読書をする子は限られた数人である状

況です。

あと、コロナ禍で利用状況が厳しいなか、三和分館はあまり増減幅がなく、色々なところで工夫をされているのかなと、そういう三和分館のいいところも学ばせていただけたらと思いました。

事務局：電子図書館については、次の2番目のところで、その報告をさせていただきます。電子書籍が始まってから、電子書籍が読みたいとの理由で利用券を作りにくられる方も増えており、せっかく来館したのだからと、紙の本も借りて帰りながら、電子の本も利用されるということもでてきており、これまで利用券を作っておられなかった方が図書館に来館されるきっかけになっている部分もあり、その状況が続けばと思っているところです。

2 「ふくちやまし電子図書館」等について

～資料「ふくちやま電子図書館についてのプレスリリース資料」に基づき、事務局から報告～
内容：「ふくちやま電子図書館」の導入状況について

事務局：ふくちやま電子図書館について説明します。

皆さまのお手元に、12月の市長定例記者会見の際に発表したプレス用資料をお配りしておりますので、そちらをご覧ください。

電子図書館は、インターネット環境があれば、自宅でも、外出先でもパソコンやスマートフォン、タブレットから図書館の開館時間や天気を気にせず、いつでもどこでも読書を楽しむことができます。

また、視覚障害のある方でも、文字の拡大や音声読み上げ機能を利用したり、なかなか外出することが難しく図書館への来館が困難な人にとっても、読書を身近なものにすることができます。

ふくちやま電子図書館の大きな特徴のひとつは電子書籍コンテンツの充実です。和書を中心に幅広いジャンルを網羅し、特に児童書が充実しています。もうひとつは、市内の小中学生約6千人に電子図書館用のIDとパスワードを一括付与したことにより、読書に親しめる環境づくりを整備したことです。

1月20日のオープン時には、遷喬小学校の児童と市役所にいる市長と教育長をリモートでつなぎ、オンラインミーティングを開催するなどし、多くの新聞等にも掲載いただきました。

そうして、1月20日のオープンから2か月あまりが経過した3月18日現在、電子書籍コンテンツ数は、18,000タイトルから19,600タイトルに増え、ログイン数97,672件（1日平均1,684件）、貸出数55,661件（1日平均959件）となっています。

単純に比較すると、ログイン数は、令和2年度の中央館の来館者の1日平均485人の3.4倍となっています。また、小中学生にIDとパスワードを付与したことで、利用者の約8割を占めています。

令和4年度に電子書籍を5,000タイトル増やし、合計24,000タイトルとし、今後もその数を維持したいと考えておりますが、電子書籍の多くは、利用期限や利用回数が決まっているものが多く、令和3年度に購入したものの約5割が期間限定型です。そのため、取り扱う電子書籍の数を維持するためには、継続して予算を投入する必要があり、事業継続の大きな課題であると考えます。

もうひとつの課題は、電子図書館の利用者にいかに図書館に来館していただけるようになるのかです。来館型と非来館型の両方を充実させたハイブリッド図書館として、どう整備していき、より多くの方に本との出会いや読書の楽しさを提供していくかを委員の皆さまと検討させていただき、充実したものにしていきたいと考えています。

委員：ただ今の電子図書館について、何かご意見、ご質問がある方はお願いします。

委員：スタッフの1人が、小学生高学年の男子児童の親なのですが、先ほどの先生の話と逆なのですが、これまであまり本を読まなかった子が、電子図書をよく読んでいて、親としてもわざわざ図書館まで行かなくてよく、とってもあれはいいとすごくほめていました。

委員：むいている人には、むいているということなのですかね。先ほどの期間と、貸出回数と、予算の関係についてももう少し詳しく説明をお願いします。

事務局：さきほど期間限定型が5割とお伝えしましたが、電子図書館の多くが、電子図書館を利用する権利を図書館が購入している形態をとっておりまして、ほとんどが2年経つか、もしくは、利用回数52回のどちらかに達すると、そのコンテンツが利用できなくなる契約を結んでおります。ですので、例えば、18,000冊の内のほぼ半分が、今人気で52回借りられましたら消えてしまう。もしくは、52回借りられなくても2年経過すれば、利用できなくなるという状況となります。図書館としても人気があるコンテンツは、権利が消滅した場合には、再度権利を買い、提供していきたいと考えておりますが、ただ、どうしても2年が経過すると権利がなくなってしまうものがありますので、そのあたりは利用状況を見ながら数にこだわらず、より良い形で電子図書館の質を維持していくことが大きな課題となっております。

委員：つまり、紙の本であれば購入したものを置いておけば、数が増えていく一方であったものが、電子ではそうではないということですね。これまでで、52回済んでしまい、無くなってしまった書籍はありますか。

事務局：実際に既に30冊ほどなくなっています。特に、学校のおぼけとかのおぼけシリーズが人気の状況です。

委員：それでは、児童書で読んでいて楽しいものが消えていっており、大人向けの本については、そのような状況ではないということですか。

事務局：そのとおりです。

委員：1月20日の開館を考えると、3月の本日時点で52回を過ぎていることを考えると、返却のペースが速いということですね。

事務局：児童生徒の皆さんは、手元においておくという感じではなく、読んですぐ返して、次を借りるという感じだと思われ、学校を通じて付与しましたIDでは、予約ができない分、

興味を持ったものを次々借りられている状況があると思われます。

委員：先ほどの三和分館の活動、貸出し冊数が減っていない状況については、学校でも大変お世話になっており、学園にも3小学校からと中学校の本が在庫として多くあるのですが、それに併せて分館から良い図書を貸出しいただき、司書さんがつなぎ役になっていただき、本のやり取りが良くされていることは、大変ありがたいことで、電子図書についても、中央館から遠い場所でもあり、タブレットが入ったことの利点として、本に親しんでいなかった子ども親しめる機会を作らなければということでログインのしかたとかを教えて、体験をさせてみています。これが、定着するかどうか、これがいいのかどうかというのは、子どもによると思います。私を含めて図書館の空間が好きで、そこの中で本に親しむことが楽しい子どももいれば、活字から情報だけが欲しい子どももいれば、ゲームに親しんでいる子どもたちが、その何かを考える中で情報として利用したい場合、質感として手触りみたいなものを楽しんでいる子どももいると思いますので、子どもたちの色々なニーズにどのようにして我々が答えていけばいいのかなというのが、これからの図書館の在り方と絡んでいくのだろうなと感じています。

委員：音楽配信サービスのナクソス・ミュージック・ライブラリーを試してみたのですが、図書館で音楽を貸してもらえるのってすごいなと思いました。考えてみたらCDも借りていますし、それもありがたかったです。ただ、努力すればできましたが難しかったですね。

委員：それは、使い方が難しかったということでしょうか。

委員：そうですね、曲を選ぶのところが難しかったですね。自分が聞きたい曲をどうやって調べたらいいのかとかです。

委員：さきほど、学校の怪談がおもしろいとか、読まなかった子が読みだしたとかありましたが、最後に紙の本を渡さないと思います。そしたら紙の本で読んだ方がもっと面白いということが分かると思うのです。ある学校の先生から電子書籍で読みだしたけれど、紙の本の方がいいと言った子がいるということ聞きました。好きな時に好きなページを見られるし、ゆったりと読めると。せっかく読みだしたのであれば、そこに学校の怪談シリーズをバサッと置いてあげれば、子どもはそちらに興味をしめすと思うのです。三和学園と三和分館、大江学園と大江分館、夜久野学園と夜久野分館が今ダイレクトに学校に繋がれるように各分館があるので、そこらへんお互いにうまく連携して、今この本が電子図書で良く出ているみたいということ、先生方も生活の中で子どもたちを見ておられて、分館に情報提供されて、その本を図書館が貸出して、学校に持って行ってもらえば、紙の本での読書に繋がるのではないかと思うのです。それってすごくありがたい状況を手に入れたのではと思って話を聞いていました。

私もよく利用をさせてもらっていますが、長い本を電子で読もうとは思いませんが、How To本、今日のお料理とか、朗読物を流しながら台所仕事をするとか、ラジオを聴く感じで、昔のラジオ生活に戻ったような感じで、結構利用しております。それも、すぐ返せるからそれはありがたいと思っています。図書館にわざわざ行かなくても簡単に見られるスピーディさはすごくありがたいと思っています。ただ、じっくり読みたいものは、目

はチカチカするし、紙媒体の本がいいですし、子ども達にやっぱり紙の本がいいなと言ってもらえるように、そのことを知らせるための手段としてこれが使えればと思いました。

今こそ、各分館と各学校がうまく連携をとれたら面白い動きが、学校の帰りに図書館に行くルートを作ることができるのではないかと聞いて聞きました。それと心配するのは、それだけお金がかかるものを維持していくために、紙媒体の本は大丈夫なのかなと、そちらを削減されることがあったら困るなどということで、図書館としては紙媒体の本を大事にさせていただいて、あくまで導入で、そして長く読まれているような本の所に連れていければと思いました。

委員：今の話を聞かせていただいている、私、個人としては正直あまり電子図書館については興味がなく、家も近いので、読みたい本があれば図書館にあればよいと思っていましたが、いろいろ話を聞いていると気軽に借りて、すぐ返せるというそういう使い方もあるのかと、それなら両方登録しておき、自分の合う方法で選択すればいいのかと思ったのですが、蔵書のタイトルのリストみたいなのは、入らないと分からないのでしょうか。私のような人が、登録をする動機付けとして、こんな本があるのであれば登録しておこうかなというように、登録がなくても見られるようなものがあれば、会員数を増やす手段になるのでは思います。

3 福知山市図書館協議会委員の公募について

～資料「福知山市立図書館協議会委員 公募要領」に基づき、事務局から報告～

内容：令和4年5月31日で委嘱期間が終了する図書館協議会委員の公募について

事務局から、図書館協議会委員の任期は2年となっており、令和4年5月31日をもって現在就任いただいている委員の方については、委嘱期間満了となるため、公募委員を3名程度ということで現在募集させていただいており、公募委員以外の区分で就任いただいている方については、改めて次期のことについてお願いさせていただくことになることを説明。

<閉会挨拶>